

大学図書館問題研究会 京都

京都市左京区吉田本町

京都大学教育学部図書室

(竹村心気付)

TEL 075-751-2111 (内3013)

「大学教育実践」と図書館と共同する課題について考える

山下 弘

(立命館大学)

1. はじめに

今年の京都支部のテーマ(大図研第11回全国研究集会)は、『学生の図書館利用と大学教育実践—学生の「学問研究」への能動的姿勢をどうつくるか』と云うものでした。

このテーマのねらいは「大図研がこれまで利用者の大学図書館づくりをめざして図書館サイドからの追求,例えば,学生の利用を伸ばす活動や,PR活動などおこなってきましたが,これに対して,学生の「学問研究」への能動的姿勢をどうつくるかをテーマとして大学教育実践に学び,図書館活動を展開してゆこうと云う考え方から提起されました。

この問題提起は,大学教育の在り方を調査し,研究するなかで,大学教育と共同する図書館問題を追求しようと試みたものです。現在,大学教育の置れている状況を把握し,教育現場から,利用者である学生のニーズに合った図書館活動をどのように展開するのか,

無論,私はこのようなテーマに答える能力も自信もありませんが,以前学部事務室にお

り,今図書館に籍を置いている関係から,私の感じていることを話してみたいと思います。

2. 図書館の役割について

図書館の業務は改めて言うまでもありませんが利用者の求める資料を利用者に提供することにあります。図書館業務には図書の整理や保管,管理といった業務もありますが,私の考えるところでは,究極的には,利用者の求める資料をより早く,より正確に提供することにあります。どこの図書館でも,このような要求に応じて,努力をしています。

ところが利用者である学生の実態を見ますと,図書館サイドの努力にもかかわらず,利用者に有効的に答えられていない側面を私は感じています。

私のところの図書館の例で言いますと,入館者は,1日平均2,195('84),全学生数の11%です。図書貸出冊数では,1日平均238冊,年間1人当りの貸出冊数では,4.2冊という現状です。このような状況から見ても,図書館を全く利用せず,卒業する学生も少なからず存在しています。私の希望か

ら言えば、すべての学生が図書館に親しみ、大学生としての基礎学力や専門的な知識を身に付け、社会人に巣立って欲しいと願っていますが、現実には少し離れた所にあるように感じています。

今日の学生の実態は教員の期待とはギャップがあり、とくに学生の自主的な学習態度について、先生方から次のように指摘されています。'まじめに勉強しない。'遊んでばかりいる。'問題意識がない。'受身的でいわれたことしかしない。'どうして自分の大学、学科を選んだのかわからない。等々です。このような先生方の脳みや学生の弱点をどのように克服していくのか、そして生々と学生や社会に通用する学力を持った学生をどのように育てるのか、図書館職員としても教員と共同して、追求してゆきたいと願っています。

3. マスプロ教育の基盤

私学の置かれている状況を見ますと、財政の基盤が父兄を学費を基礎にしており、入学時学費が非常に高く父母負担の限界にきており、公費助成も財政難を理由に政府は毎年削減しています。このことにより、教育や研究に対する条件が増々悪化し、学生に皺寄せが余儀なくされているのが現状です。私たちは困難な研究条件や教育条件を切り開いてゆく公費助成運動や教育研究活動を押し進めてきました。

4. マスプロ教育と小集団教育

私たちは、マスプロ教育の弊害を取り除くため、「小集団教育」を実施して20年以上にもなります。'60~'70年代の大学進学率の急速な増加は受入れる体制が整えられないまま、私学に多くの学生を入学させた結果、大教室で授業をおこなうマスプロ教育が産み出されたものです。私たちの大学ではこの弊

害の解決方法の一つとして「小集団教育」の誕生をみたのです。「小集団教育」は単にマスプロ教育からの弊害を取り除くだけにとどまらず、高校教育までの教育のひづみ問題まで論議されました。「小集団教育」にこめられた目標は、

- ①小集団による学生の自発的な研究によって自主的な学習態度を身に付ける。
- ②内容的に密度の高い知識を養い。
- ③討議による授業システムを実施することにより、思考力や表現力を付ける。
- ④学問を通して、教員と学生、学生同志の交流をはかり、人間形成に役立てる。

と云った内容で、'63年(昭38年)に発足しました。それ以来、何回も先生方の意見や学生たちの要求による討議が重ねられ、今日のような形態をつくりました。

基礎演習……………基礎演習Ⅰ(1回生)
外国書講読…→講読→基礎演習Ⅱ(2回生)
演習……………→演習(3・4回生)

このように1回生から4回生まで小集団教育を軸として、一般教育科目や外国語や専門科目との関連の中で正しく位置づけ、自主的な研究姿勢を修得できるよう指導されてきました。勿論、教員の負担は多大なものになり、運営上、クラス合宿、親睦会(コンパ)など、時間上も大変苦勞されていることを聞いています。1回生の小集団教育の内容や到達点をどのようにするのか、全クラスがバラバラでよいのか論議をされた結果、「共通教材」の編集などがつくられました。産業社会学部が全学的に影響を与え、広がりつつあります。

5. 小集団教育と図書館

小集団教育と図書館の関係から見ますと、法学部では、判例を中心に研究を指導され、図書館資料とは密接な関係があります。法学

部の「共通教材」の中に、判例資料の探し方や論文レポートの書き方など紹介しており、図書館からは、「図書館だより」に「判例の探し方」などを掲載しました。その他には「小集団教育」が軌道に乗ってくると様々な要求が図書館の方にも提案されるようになりました。例えば、クラス別図書館ガイダンスの実施や各学部コーナーの設置（小集団教育で紹介されている文献を閲覧できるコーナー）、グループ討議室の設置、小集団クラス特別貸出制度の設置などです。最近では、視聴覚施設の要求やコンピューターによる情報検索も出されています。

図書館サイドから利用者の動きを見てみると、全体的には年々入館者、貸出冊数が増加しています。がさらに詳しく見ますと、法学部、文学部、理工学部は経済学部、経営学部、産業社会学部に比較して、入館者や貸出冊数でも一段高い水準を維持しています。勿論、法学部では判例の使用なしには勉強できませんし、文学部では原典や歴史資料をひもとかないと研究が進まないと言う条件はありますが、他の学部より進んでいる所は、教員の図書館に対する指導が徹底をしているところにあると思われます。教員の図書館に対する具体的な指導によって、学生の自主的な学習が一段と高かまっている点で重要なことだと思います。

昨年度は小集団担当者（法・経・営）の先生方と話し合いをもち、先生方からの要望として次のような意見が出されました。

- ①小集団教育と図書館の関係は大変重要であり、密接な関係をはかってゆきたい。
- ②図書館ガイダンスを1回生だけではなく3回生演習についてもおこなってほしい。
- ③新刊書の整理のスピードアップと副本を充実させてほしい。
- ④職員のレファレンス・サービスの力量を向

上させてほしい等々。

先生方からの図書館に対する要望は他にも沢山あると思います。図書館側からの積極的な話し合いなどが、先生方の関心を引き起し、学生の要求を正しく把握して、図書館活動をおこなってゆけば、大学教育の発展に大きな役割を果たすことができるものと思います。

6. めざすべき学園像と学生像

図書館サイドからの積極的な姿勢と同時に大学の教育方向が明らかにされているかどうか、しかも全学の意志が統一されているかと言うことも大切な点ではないかと思っています。

私の大学では、学生の代表と大学機関の代表でとりかわされる「全学協議会確認事項」と言う文書があります。79年の文書の中に学園像学生像が次のようにかかげられています。

「①確かな基礎学力と民主的・社会的常識と社会に通用する専門学力・技術・国際性をもった学生。

②学問の探求と講義への意欲をもち、自主的集团的な学習活動へ積極的に参加する学生。

③働くことの大切さと権利意識を身につけ、自己の希望と能力に応じて、あらゆる分野に進出する学生をめざす大学づくり」を目標にしています。また学園創造を進める教職員のところでは、次のようにも述べられています。

「大学の教育機能を重視し、教育内容、教授法の研究の遅れを克服する課題は極めて重大である。……教員は研究者であると共に、教育者であることが強く求められている。教育と研究の実践的統一がより一層高い段階に引き上げる内容としている。」

私たちが学生と交わした文書を職場で実践し、内実させることがこれらの課題を一層高い段階に引き上げることとなります。

7. おわりに

私学は'92年の18才人口のピークに到し、それ以後は急激に減少する問題は真刻な事態が予側されています。広範な国民の支持と信頼される大学づくりが今ほど重要な時期はないと言えそうです。私たちが働いている図書館の課題から言っても大学における図書館の果している役割は増々重要になってきていると思います。

これまでの私たちの図書館の動きはややも

すると受動的で、大学の中にあっては重要視されない存在だったような感じがします。

しかし、図書館界では学術情報システム化などコンピューターによる文献検索など図書館の動きなどを見ていると教員、院生、学生から信頼される機能と内容をもった図書館に発展させなくてはならないと思います。そのためにも今日のテーマである教員と図書館がより一層密接な関係を確立し、共同の取組みを強化してゆくことが要請されているのではないのでしょうか。

お し ら せ

新春5支部例会について

日 時：1986年1月18日(土) 14:30~16:30

場 所：大阪府立労働センター(天満橋)

講 師：豊 後 レイコ 氏

テーマ：未定(例えば「レファレンス・ライブラリアンとして」「レファレンスの仕事」など)

会 費：500円

懇親会：(17:00~19:00) 於なんば精養軒

大図研学校の会場、講義内容の変更について

- | | | | | |
|-----|-------------|-----------|--------|-------|
| 第3回 | 所在調査活動 雑誌 | 12月14日(土) | 末川記念会館 | RN5 |
| | | 14時~16時 | | |
| 第4回 | ワークショップ参考調査 | 2月22日(土) | 京大会館 | RN102 |
| | | 14時~16時 | | |
| 第5回 | 文献探索活動 論文 | 3月8日(土) | 末川記念会館 | RN5 |
| | | 14時~16時 | | |